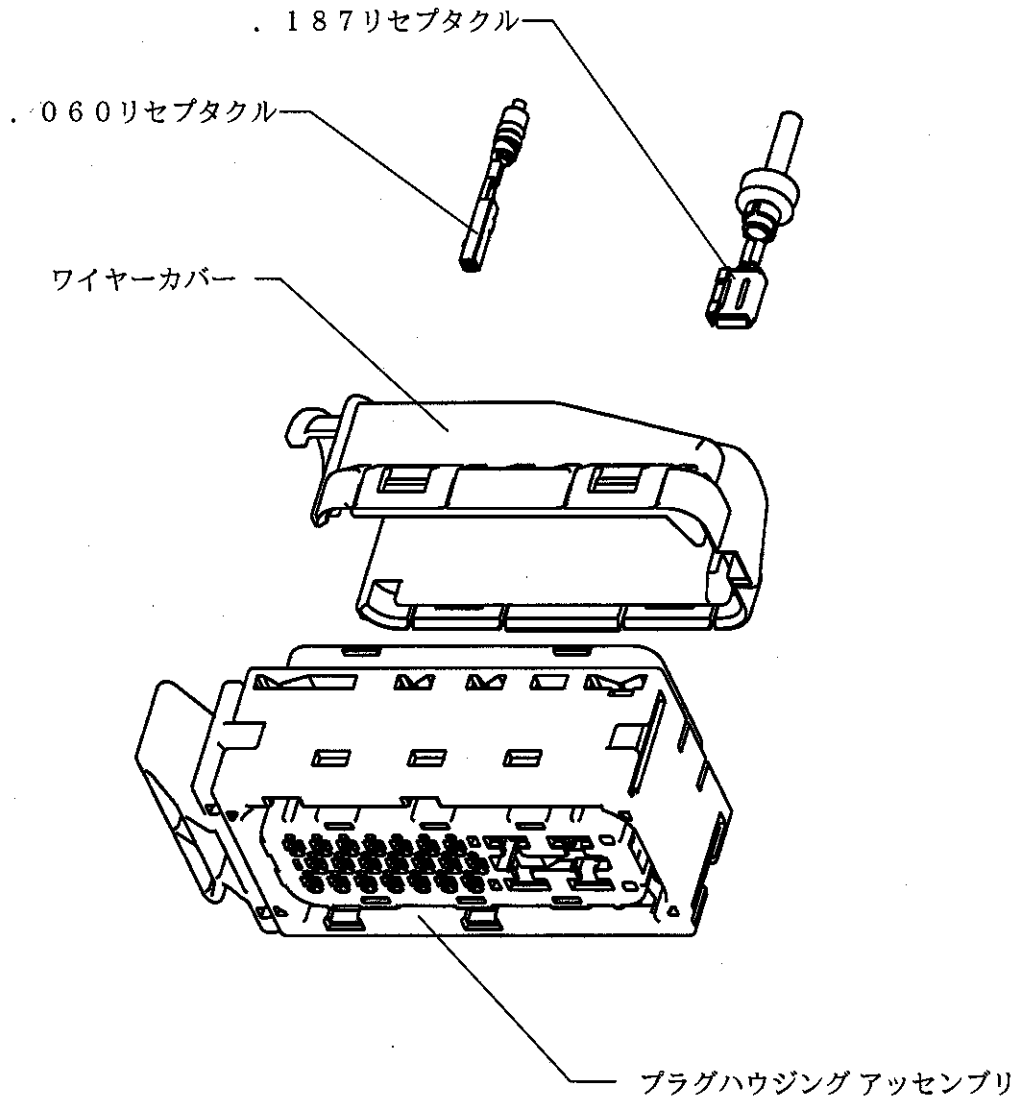


1. 各部品名称及び製品型番

1.1 各部品名称



1.2 製品型番

1.2.1 端子

名称	AMP型番	線種	適用電線					
			0.3	0.5	0.85	1.25	2	3
.060 リセブタクル	900293-X	AVSS/CAVUS	○	○	X	X	X	X
.187 リセブタクル	175090-X	又は AVSSX/AESSX	X	X	○	○	X	X
	175091-X		X	X	X	X	○	○

1.2.2 ラバープラグ

I). 060リセブタクル用

端子圧着タイプ: 316867-X(0.3~0.5SQ)

967067-1(0.85SQ)

埋め栓: 1473234-1

II). 187リセブタクル用

タイコ エレクトロニクス アンプでは設定しておりません

1.2.3ハウジング

極数	名称	AMP型番	相手ハウジング型番
25	プラグハウジングアッセンブリ	316874-X	316829-X
	ワイヤカバー	316873-X	316874-X

3. 圧着作業について

端子の圧着は、必ずAMP指定の工具により、指定された規定に従って行なって下さい。又、型番、デートコードは、後日の資料として記帳、保管しておくことを、お勧めします。

3.1 保管及び運搬管理について

- 1) 梱包箱より取り出したままの裸状態での放置、運搬は避けてください。
- 2) リールのフランジの片側のみを持って運ばないでください。リールが破損し、圧着機にかからず、使用できなくなります。
- 3) 湿気の多い所に放置しないでください。直射日光の当たらない清浄な屋内で、常温（5～35℃）常湿（45～85%）の環境下で保管してください。
- 4) 使用を中断して、一時圧着機より取り外されたリールは、その先端を適当な紐によってフランジに結んでおき、リールがほどけないようにしてください。

3.2 圧着作業管理について

- 1) 電線は、被覆に傷が付いていたり芯線に刻み目、破断、折れ等の無い物を使用してください。
- 2) 電線端末処理は適応する圧着規格に従い、行なってください。
- 3) 圧着高さの測定は専用のマイクロメータを使用してください。

3.2.1 圧着規格

圧着に際しては、以下に示す規格を参照してください

・ 060端子：114-5216

・ 187端子：114-5126

3.2.2 圧着データ

端子を圧着するためのアプリケーション型番、所要寸法は下記の通りです。必ず作業の前に確認してください。

I). 060リセブタクル

端子 型番	アプリケー タ型番	電線 サイズ (mmsq)	芯線圧着部			絶縁被覆 抑え部 圧着巾 (mm)	圧着部 引張強度 (kg以上)
			巾 (mm)	圧着高さ (mm)	ディスクの 記号		
900293-X	234749-2	0.3	1.78	0.94±0.05	C	3.2	8
		0.5		1.03±0.05	B		9

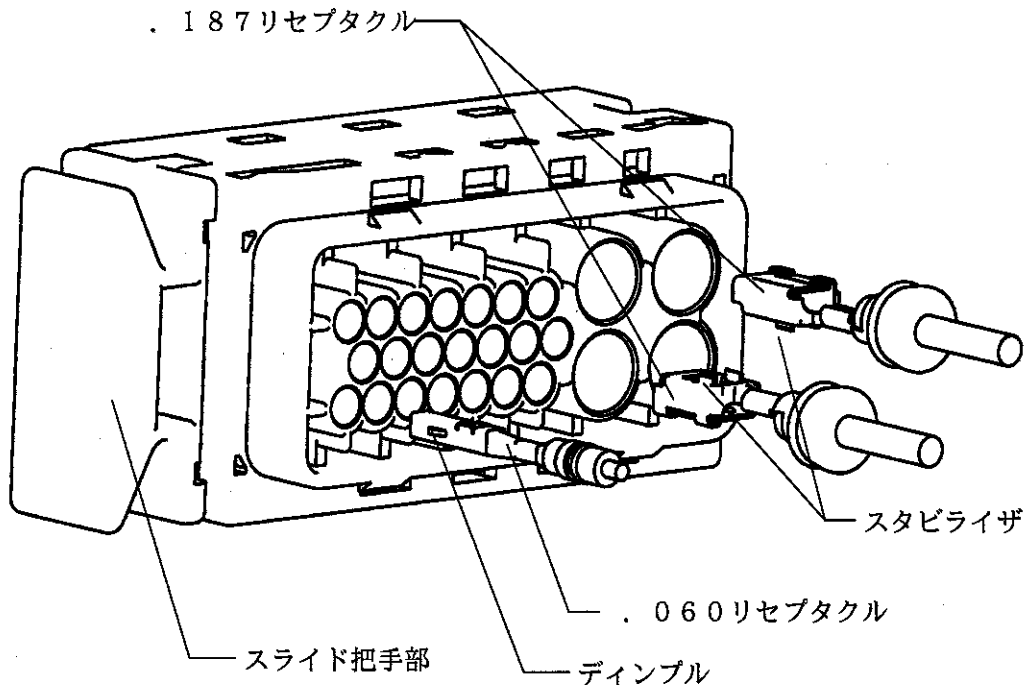
II). 187リセブタクル

端子 型番	アプリケー タ型番	電線 サイズ (mm ²)	芯線圧着部			絶縁被覆 抑え部 圧着巾 (mm)	圧着部 引張強度 (kg以上)
			巾 (mm)	圧着高さ (mm)	ディスクの 記号		
175090-X	912996-2	0.85	2.54	1.61±0.05	B	4.83	13
		1.25		1.75±0.05	A		18
175091-X	912997-2	2	3.30	1.95±0.05	B	5.84	27
		3		2.26±0.05	A		30

4. ハーネス製造作業

4.1 ハウジングへの端子装着作業及びダブルロックの本係止

4.1.1 端子装着作業



以下に適用端子装着方法を示します。上図を参考にしながら作業を行なってください。端子には方向性が有るため、図のようにスライドの把手部を左側にすることを基準として、上下、左右の表現を用いることとします。

I). .060リセプタクル

スライド把手部と、.060リセプタクルのディンプルを同じ方向にし、挿着してください。この際、「カチリ」と音がするまで、確実に奥まで挿入してください。

II). 187リセプタクル

上下の、187リセプタクルのスタビライザが向い合う方向で、挿着してください。この際、「カチリ」と音がするまで、確実に奥まで挿入してください。

【注意】

.187リセプタクルが上下ペアに挿着される様に回路を設計してください。上下いずれかのみを使用ですと、次項で述べるリテーナの本係止による半挿着検知ができなくなる場合があります。

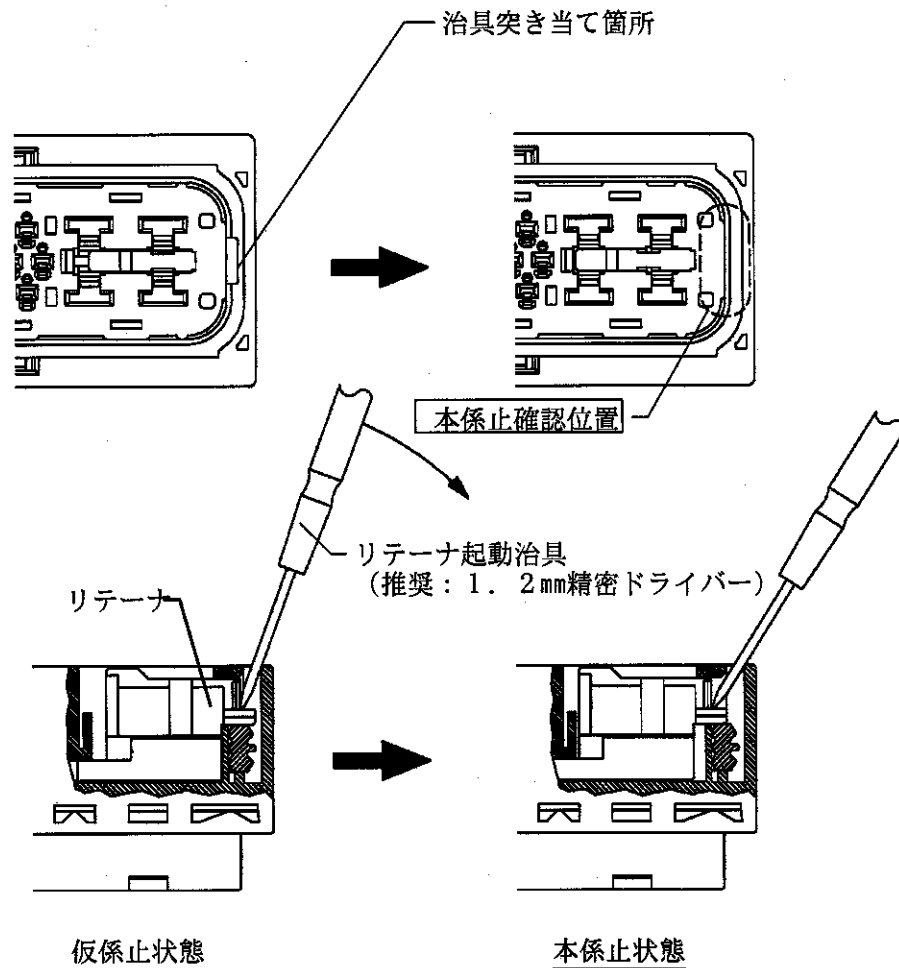
4.1.2 リテーナの本係止

1) 本係止作業

下図に示す通り、リテーナ起動治具（推奨：1.2mm精密ドライバー）を所定の場所に突き当ててリテーナを起動させ、本係止させて下さい。

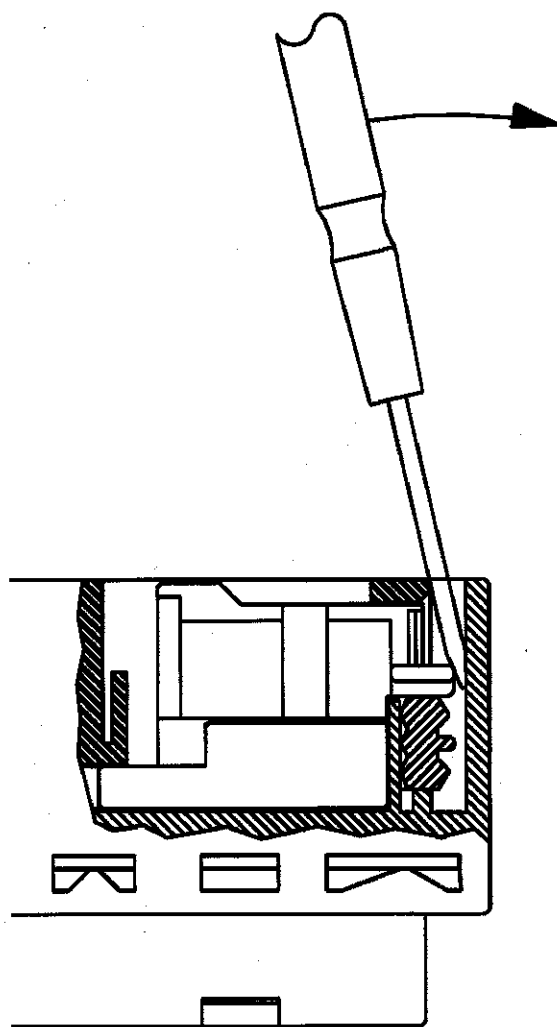
この際、起動が固く感じたら、作業を中止してください。25本の端子の内、いずれかが半挿着になっています。半挿着となっている端子を奥まで挿入し直し、作業を再開してください。無理に本係止させようとすると、治具やコネクタの変形、破損が生じます。

リテーナが本係止すると、正面から見て、治具突き当て部がみえなくなります。



II) 本係止作業の注意事項

下図に示すような、リテーナ側面へ治具を突き当てての本係止作業は絶対に行わないでください。シールリングを傷つけ、所定の防水性能を得られなくなる可能性があります。



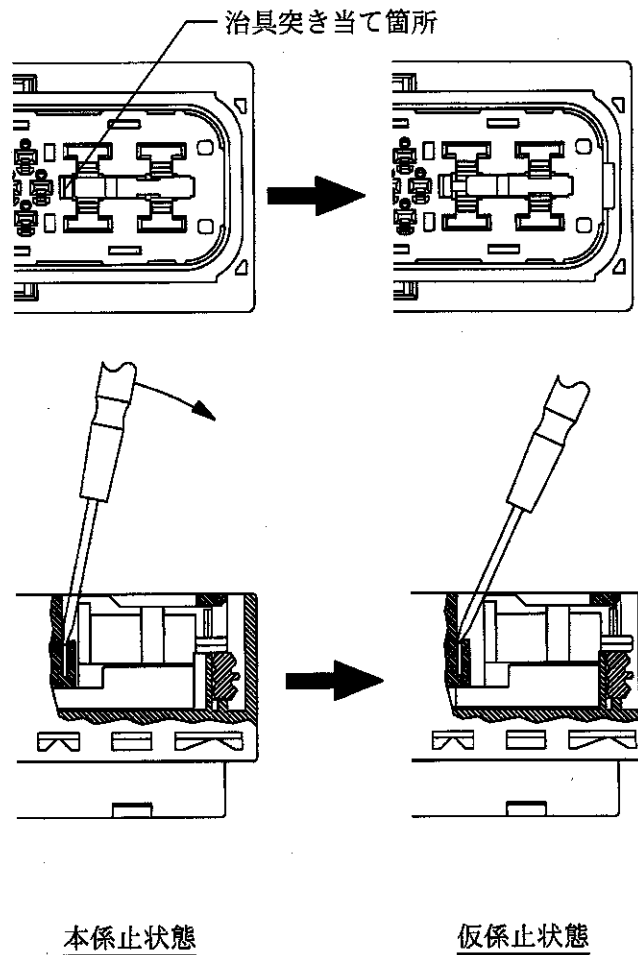
非推奨

4.1.3 端子の引抜き

端子を引き抜く必要が生じた場合は、以下の手順に従ってください。

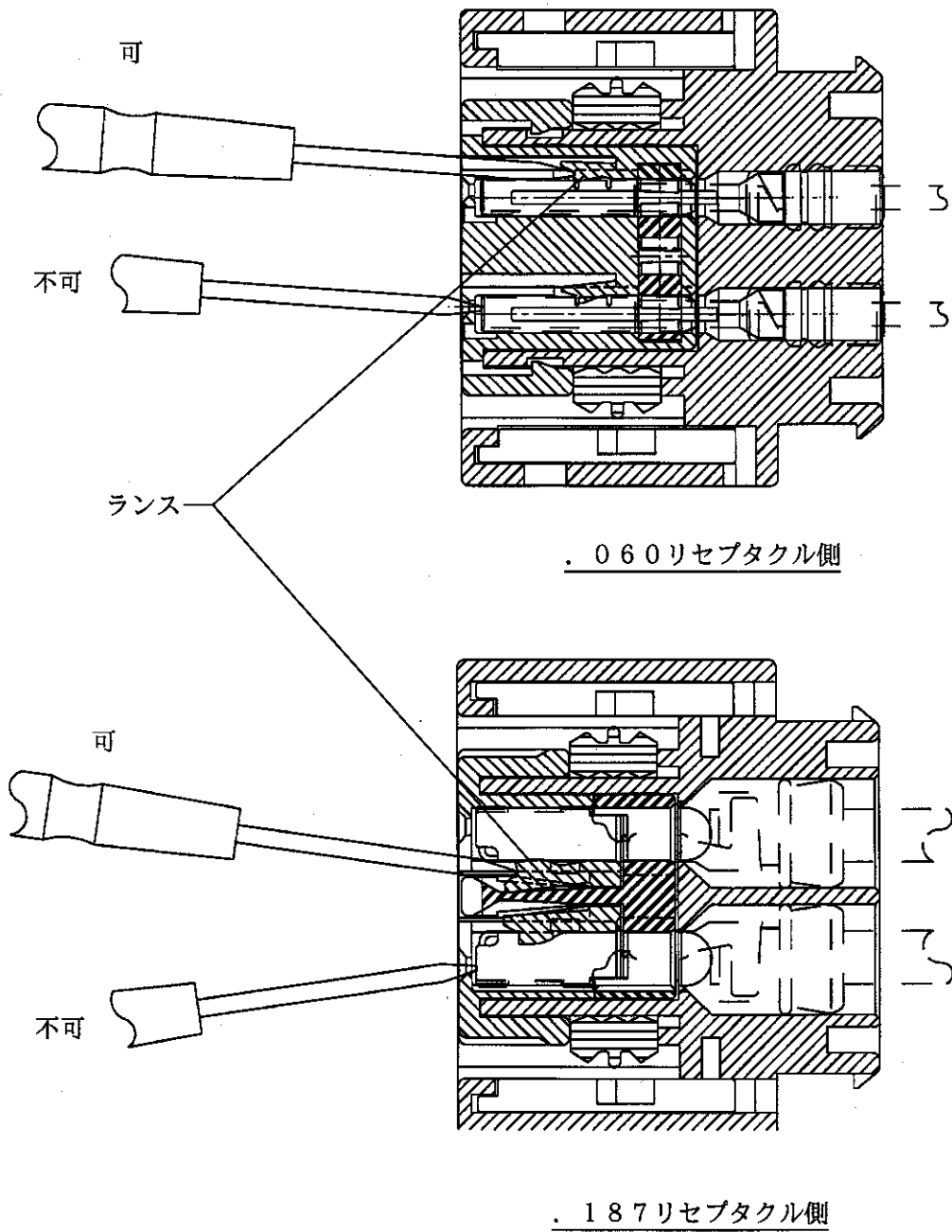
1) リテーナの本係止解除

治具（推奨：1.2mm精密ドライバー）を所定の場所に突き当て、図に示すような方法でリテーナの本係止を解除してください。



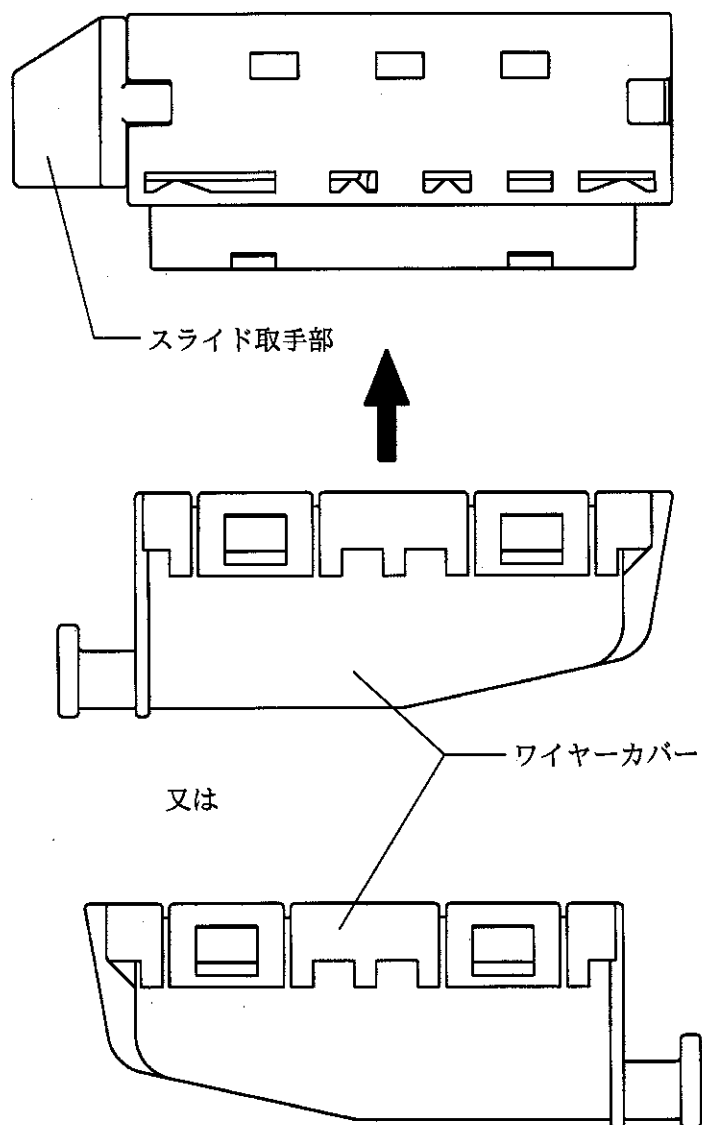
II) ランスの解除

.060/.187両リセプタクル共、所定の位置に治具（推奨：1又は1.2mm精密ドライバー）を挿入し、ランスに突き当てランスを解除した後、端子を引き抜いてください。この際、端子の中に治具を入れないように注意してください。所定の電氣的性能が得られなくなります。



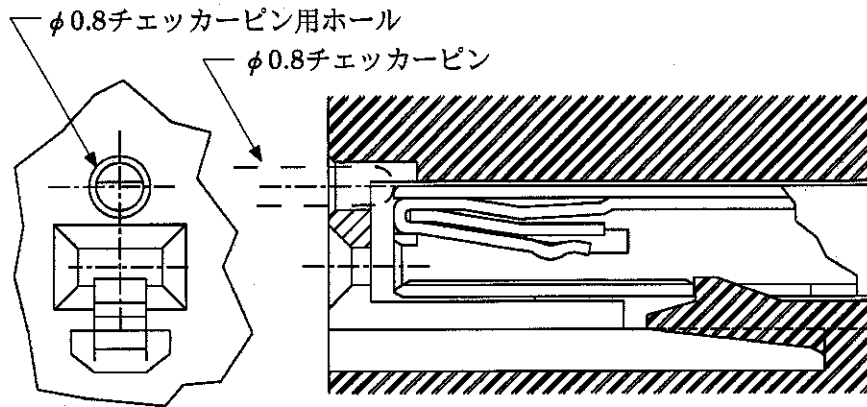
4.2 ワイヤークバーの取付け

ワイヤークバーはスライド把手部に対し左右どちらの方向でも取り付ける事ができます。この際、ワイヤーのかみ込みに注意して作業を行なって下さい。



4.3ハーネスチェック方法

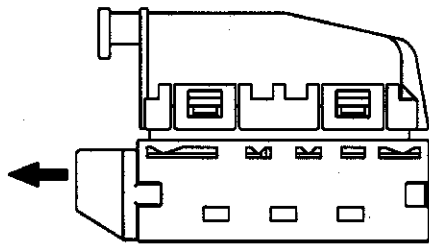
下図のφ0.8チェッカーピン用ホールを使用してハーネスチェックを行なってください。

**注意**

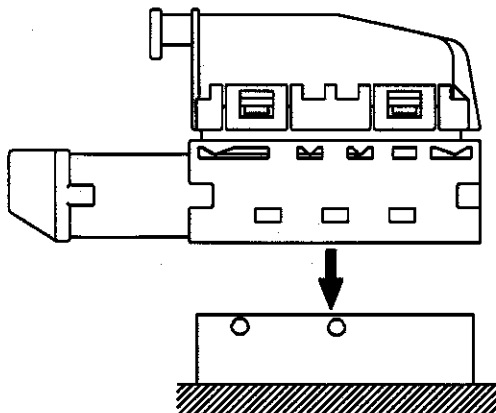
この際、端子挿入穴の中にチェッカーピンを入れないように注意してください。
所定の電気的性能が得られなくなります。

5. かん合作業

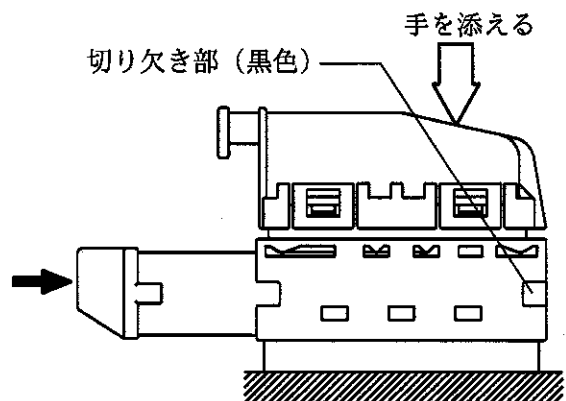
(1) スライドを矢印方向に止まるまで一杯に引いてください



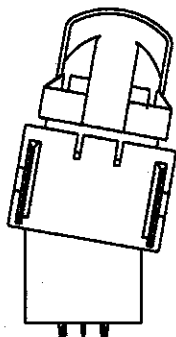
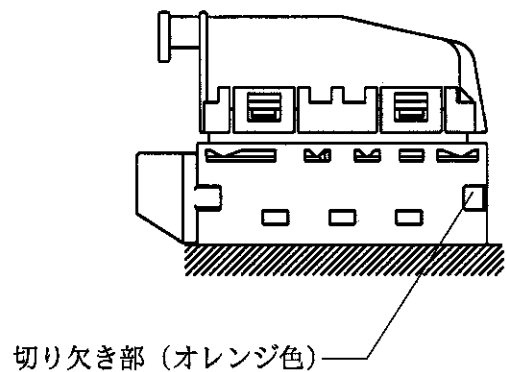
(2) キャップハウジングに対し、突き当たるまでかん合させてください



(3) プラグハウジングが浮き上がらないように押えながら、スライドを矢印の方向に突き当たるまで押してください。この際、押し方が不十分だと、下図に示す切り欠き部からスライドが見ず、黒いままです。



(4) かん合完了。切り欠き部からスライドが見え、オレンジ色になります



* 注意：キャップハウジング突き当ての際、必要以上に力を加えると、プラグハウジングがふくらみ、左図の様に斜めにキャップハウジングにはまり込む場合があります。このような状態が生じた時は一旦プラグハウジングを引抜き、(1) から作業をやり直して下さい。